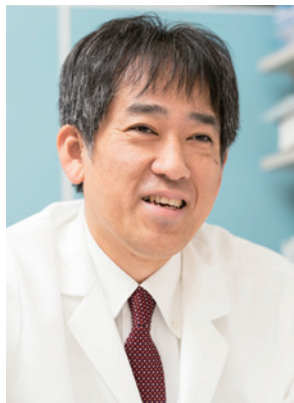




隣の薬剤部・薬局

大分大学医学部附属病院薬剤部



伊東 弘樹 部長

—こちらの病院・薬剤部の特徴 や方針をお聞かせください

大分県内には大学病院がここ1カ所しかないこともあり、地域に根づいた医療に特化している大学病院であると言えます。例えば、当院の救命救急センターは、大分県のドクターヘリの基地になっており、地域の救急医療における大きな役割を担っています。また、がん診療連携拠点病院でもあります。つまり、地域の病院でもありつつ、医育機関として医師・医療従事者も養成し、さらに高度医療にも貢献するという、医療のすべてが当院に求められています。

そのため、同じように薬剤部にも多くのことが求められます。各種の薬剤業務を行いながら、大学には医学科や看護学科もありますので医学教育、看護教育の講義を担当するなどしてかかわります。そして、医師とともに共同研究も行っており、それは大学病院の薬剤部ならではの魅力にもなっています。薬剤部の職員にも、ただ業務を行うだけではなく、常に学会発表や論文投稿もめざして頑張ろうと話しています。常に、臨床の現場から派生した研究を行うことが使命であると思っています。

—薬剤部の業務内容や特徴的な取り組みをお教えてください

現在は、入院での薬剤管理指導業務とともに、外来にもより一層、取り組む方針で進めています。例えば、外来化学療法室では薬剤師による抗がん剤レジメンの入力支援を始めています。これによって医師の手間や処方漏れなどがかなり減っています。そして、最近取り組んでいるのは認知症外来です。2015年8月から認知症外来に薬剤師を1人配置し、その場で



「手術室セット薬品管理システム」により、手術室で使う注射薬を自動で管理。患者個人別に医薬品が組まれたトレーには、薬剤ごとに割り振られたカラーピットコードが貼付されている。使用後に上からカメラで撮影すると、取り出されて空きになっている医薬品の場所を自動的に認識して集計する。

患者さんの面談やフォローをし、保険薬局にも情報伝達するといった全国的にも先進的な試みに力を入れているところです。また、救急外来では、LC/MS/MSを導入し、中毒患者さんが搬送された際に薬物の同定を行っています。

その他、手術室では麻薬や筋弛緩薬などの薬剤師による処方入力支援をしています。手術件数も多く、医師は忙しいので、少しでも薬剤部でフォローしなくてはなりません。ただ業務を請け負うだけではなく、プラスアルファとして医療安全に貢献することも大切です。いずれは、手術室に薬剤師を常駐させたいと思っています。

また、調剤業務においては、「手術室セット薬品管理システム」や「注射薬取り揃えシステム」などを導入しています。これらを導入した背景には、やはり医療安全がまず目的の1つとしてあります。また、機械にできることは機械に任せ、薬剤師は患者さんのもとへ伺えるようにするのが目的です。実際かなり省力化され、インシデントも減っています。

現在はいろいろ取り組みたいことがあるので、順番に対応しているところです。新しいことに挑戦していかないと、地方の病院は生き残れないと思うのです。

—地域連携や薬業連携への取り組みはいかがでしょうか

県内の竹田市にある大久保病院には常勤の薬剤師が1人しかいないため、当院から薬剤師を派遣しています。2015年か

未来の星に聞く!



田中 遼大 さん
(2年目)

—入職された理由をお教えてください

私は熊本大学大学院に進みましたが、大分が地元で両親もいるため、修了後に地元に戻ろうと決めました。熊本では6年間、基礎研究

をしていたのですが、できれば研究成果がすぐに患者さんの利益に結びつきやすい臨床研究をしたいという思いもあり、病院薬剤師になることを選びました。そのなかで当院は研究設備が整っており、幅広い研究ができると思い、選択させていただきました。

—実際に業務を経験されていかがでしたか

現在は薬物動態解析室に所属しTDM業務をメインに担当するとともに、感染制御部に

も所属してICT業務を行っています。特に抗菌薬に関しては、医師から投与設計の要望がきたり、血中薬物濃度が正常ではないときの原因や今後の対策などを質問されて、頭を悩ますこともあります。先輩薬剤師と相談しながら対応しています。

—どのような研究に取り組んでいるのですか

感染領域をメインに、抗菌薬のPK-PD解析、副作用のリスク因子探索などを行っています



撮影／石川 卓

ら始めた試みですが、私が月2回、副部長が毎週土曜日に行っています。調剤をするのではなく、当院の業務に関する情報やノウハウを伝え、医療安全、院内感染対策の支援を行っています。

また、地域の保険薬局の薬剤師向けに、フィジカルアセスメント講習会を行っています。在宅医療の普及に向けて、当院のスキルラボセンターを使用し、当院の医師が講師となり、副作用の早期発見のためにバイタルサインの取り方などを教育しています。参加された方々には評判がよく、2013年から継続しています。

さらに、2016年1月から院外処方箋に検査値を印字しています。検査値は14項目について1回分だけではなく複数回を載せており、改善や悪化の推移がわかるようになっています。その他、患者さんの身長、体重、体表面積、抗がん剤投与の場合はレジメン名などを記載しています。その処方やデータを薬局で手入力すると打ち間違いが起きかねないので、簡単に間違いなく読み取れる2次元バーコードを載せています。また、医師から保険薬局への連絡事項、保険薬局から医師や医療機関への連絡事項も記載できるようにしています。この検査値の記載によって、腎機能や肝機能などの悪い患者さんが減量基準に該当しているか確認できますので、少しでも患者さんの安全につながればと考えています。

一人材育成への考えや支援制度をお教えてください

職員には、自分の武器になる専門を1つ持とうと言っています。なかでも、ジェネラリストを認定する日本医療薬学会の認定薬剤師の資格と、スペシャリストとしての専門資格の両方をもつべきだと思っています。

なお、当院では留学支援制度を設けており、国際学会発表や海外留学の費用を病院が負担します。2015年度は薬剤師3名がこの制度を利用して国際学会へ発表に行っています。発表準備や実際のプレゼンは大変ですが、いい刺激を受けモチベーションアップになっていますので、その後の業務に活かしてほしいと期待しています。また、職員の半数が女性ですから、女性薬剤師の妊娠や出産、育児の支援もしています。現在、育休中の薬剤師や、1歳の子どもを病院内の保育所に

使用頻度が高い注射薬は「注射薬自動払出装置」を活用し、その他は「注射薬取り揃えシステム」(写真右)を導入し、調剤補助の人でも必要な注射薬を集められる。処方箋に記載されたバーコードを読み込むと、取り揃える医薬品の棚のランプが点灯し、取るべき数量も電光掲示される。通常は在庫数が示されている。



無菌製剤処理室では、抗がん剤調製時にパソコン画面上に調製手順が表示され、間違いのない操作をサポートしてくれる。



内服薬の調剤時にPDAで処方箋のバーコードを読み取り、取り出すべき正しい棚のバーコードを読み取る。間違った棚の場合はその旨表示され、事故を防止する。



預けて時短勤務している薬剤師もいます。

つまり、当院の職場は、志の高い人にはいい環境だと思っています。採用試験のときも、やる気があるなら当院は楽しいけれど、ただただ過ごそうと思うなら他の病院に行った方がいいと思うと正直にお話ししています。

一指導的立場として大事にしている考えやこれからの展望をお聞かせください

仕事の依頼は断らないようにと職員には話しています。医師や看護師から調べてほしい、一緒にやろうと要望がきたときに、断ったらそこですべて終わってしまい発展がありません。これからは薬剤師にはいろいろなことが求められますから、少しでも時間を見つけて新しいことにチャレンジしてほしい。大変だけど、薬剤部のみんなで共有してフォローすればどうにかなることはたくさんあります。当然、最終目標は患者さんのためですが、その前に医療従事者の役に立ち、病院のなかで薬剤師の位置付けを確立しなくてはならないと思うのです。(了)

所在地：〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1-1

ます。一番の理想は、臨床で見つけたテーマを、医学部や他大学との共同研究として、基礎実験で実際に確かめて、そこで得た知見をまた臨床にフィードバックすることです。その流れを今後作れたらと思っています。

一これまでに印象に残る出来事はありましたか

2015年に国際学会での発表のためにスペインのマドリッドへ行かせていただきました。腎移植前後におけるアルブミンの質的変動と病態

との関係性を調べた研究を発表したのですが、海外の人は積極性がとてもあって、喧嘩しているのではないかという勢いでぐいぐい質問してくるのも印象深かったです。学会自体も、例えば、ポスター発表の会場は、紙ではなく電子ポスターになっており、大きな画面を自由に動かしながら説明するなど、貴重な経験でした。

一これからの目標をお聞かせください

一番の目標は、自分ではない他の誰かの役に

立つ人間になることです。それは患者さん、医師、他の医療従事者、職場の皆さんでもいいのですが、人間的にも医療人としても成長して、人の役に立てる人間になりたいと思います。

また、専門的な目標としては、自信がもてる分野を1つもちたいと思っています。具体的には感染領域ですが、感染も広いので、そのなかでもここが自分の得意分野だと言えるようにになりたいと思っています。(了)